

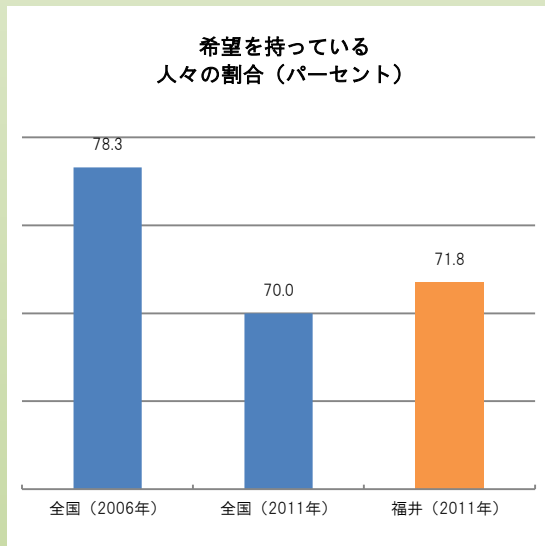
# 『福井の希望と社会生活調査』

## 結果の概要

調査の概要：	実施日 平成23年3月2日～23日
	対象者 福井県在住の20歳以上の個人 16,000人
	回収数 7,008票（有効回答率 43.8%）
回答者の属性：	男性 44.8%、女性 54.0%、性別不詳 1.1%、
	20歳代 7.6%、30歳代 11.5%、40歳代 15.4%、50歳代 19.5%、60歳以上 45.9%

『福井の希望と社会生活調査』は、東京大学社会科学研究所を中心とした研究プロジェクト・チーム（研究代表者：大沢真理）が、文部科学省の研究助成を得て、平成23（2011）年3月に実施した調査です。調査の目的は、福井県における人々の希望と社会生活の関係について調べることです。このパンフレットは調査の結果を簡単にご説明するために研究チームが作成したものです。調査結果についての詳しい説明は、パンフレット4頁目下にあるお問い合わせ先までご連絡ください。

### 1 福井の人々の希望



東京大学社会科学研究所の「希望学」研究プロジェクトでは、長年、人々の希望について研究を重ねています。この結果、希望を持つ人の割合が、全国では低下気味の傾向にあることがわかっています。今回の調査で、福井の人々は、全国平均に比べてやや高い割合で「希望」をもっていることがわかりました。

希望の内容については、全国調査は「仕事」が最も多い割合となっているのに対し、福井県では「家族」に関する希望が最も多く、また、「健康」についての希望も全国に比べて多くなっています。

しかしながら、希望を持っていることと、その希望の実現に向けて行動していることは異なります。福井県では、特に、若者（20歳代、30歳代）において、希望は持っているものの、実現に向けた行動はしていない割合が高いことがわかりました。

全国は「仕事」の希望が最多に対し、福井は「家族」の希望が最多。

「健康」についての希望も全国に比べて多い。

順位	全国(2006年)	全国(2011年)	福井(2011年)
第一位	仕事(66.3%)	仕事(61.1%)	家族(61.8%)
第二位	家族(46.4%)	家族(58.4%)	仕事(58.8%)
第三位	健康(37.7%)	健康(38.5%)	健康(48.8%)

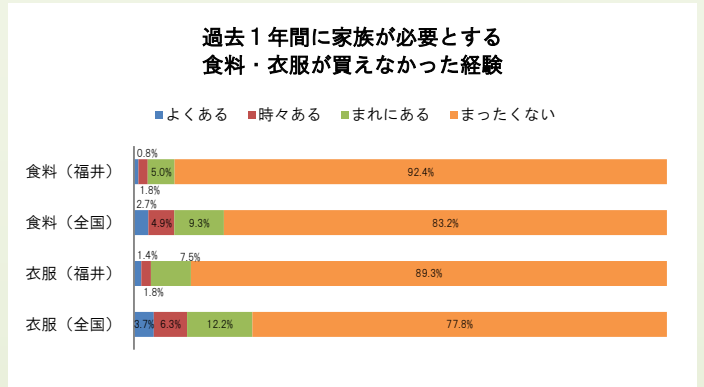
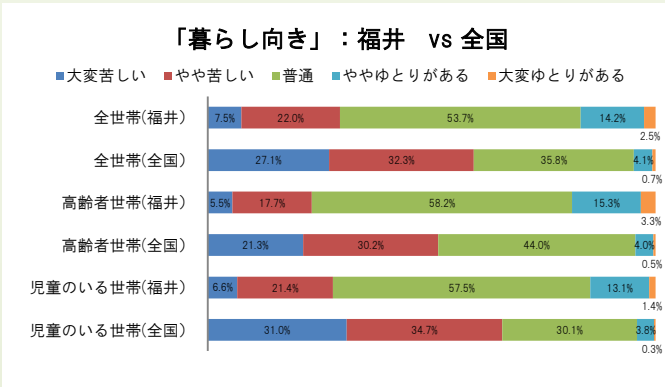
希望を持っていても、実現に向けた行動はしていない若者が多い。

	(1)希望がある(%)	(2)希望の実現に向けて行動(%)	(1)-(2)
全体	59.2	39.6	19.6
男性	61.9	42.8	19.1
女性	57.7	37.4	20.3
20代・30代	77.4	52.8	24.6
40代・50代	68.7	43.5	25.2
60代以上	45.0	31.6	13.4

注：20歳～59歳で比較。2006年全国調査『仕事と生活に関するアンケート調査』、

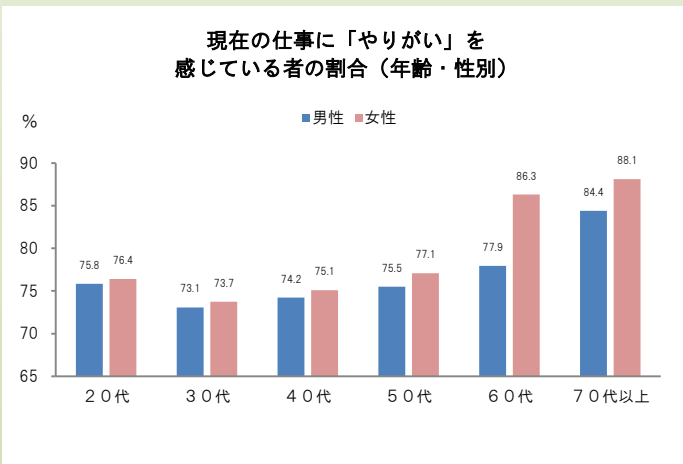
2011年全国調査『地域の生活環境と幸福感に関するアンケート』。

## 2 生活の状況



福井県の人々の生活の状況は、全国に比べて大幅に良好です。家族が必要とする食料や衣料が買えなかった経験や、「暮らし向き」で「大変苦しかった」とする人は全国平均に比べて少ないです。しかし、食料困窮では約8%、衣服困窮では約11%など、少ない人々は生活が苦しい状況です。

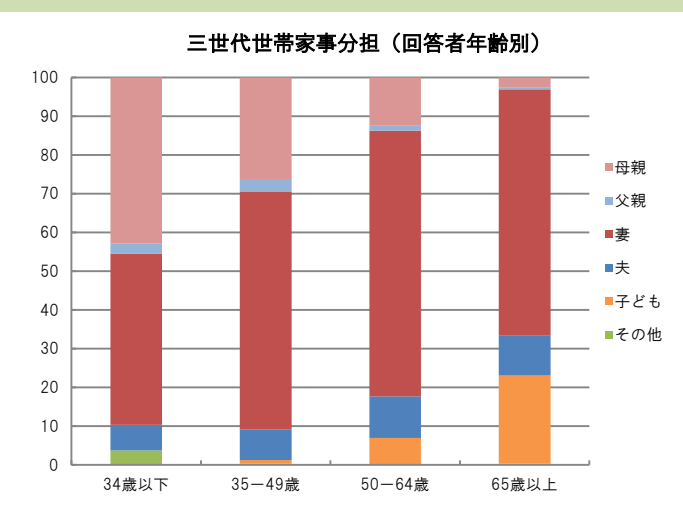
## 3 仕事のやりがい



収入を伴う仕事をしている人について、現在の仕事に「やりがい」を感じているか聞いたところ、高齢層、特に高齢女性で、「やりがい」を感じている人の割合が非常に高くなっていることがわかりました。全体では、男性よりも女性の方が、年齢の高い者の方が現在の仕事にやりがいを持っています。

注：収入を伴う仕事をしている人の集計

## 4 家事の分担



福井県は、女性の就労率が高いことが知られています。その背景を探るために、既婚者の家庭内の家事労働の分担を調べました。

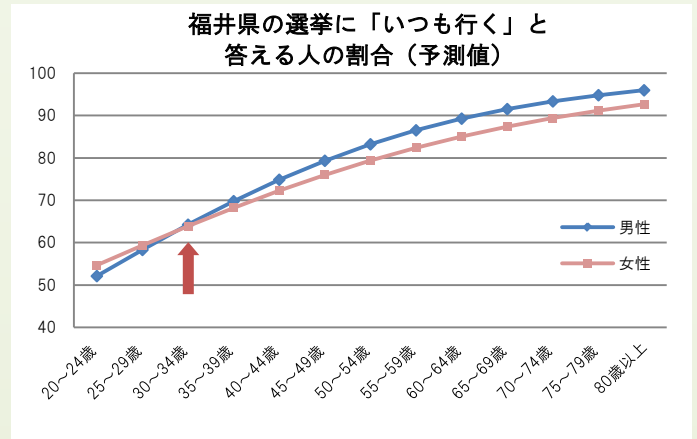
これを見ると、若いころの家事負担は、母親が担っている割合が多く、若い既婚女性の高い就労率は少なからず母親の家事負担によって支えられていることがわかりました。母親の家事の負担率は年齢が高くなるにつれ低くなり、その分女性（妻）の家事負担が大きくなります。男性（夫）の家事負担率は年齢層を通してあまり変化せず小さく留まっています。

注：回答者は既婚者のみに限定。回答者を基点として親世代と子供世代と同居している人を抽出した。

## 5 選挙に行く頻度

通常、選挙の投票率は年齢とともに上昇し、また、男女で比べると、若いときは女性のほうが高く、年を取ると逆転し、男性のほうが高くなる傾向があります。しかし、福井県では、30歳～34歳という比較的早い段階で男女の逆転が起き、男性に比べて女性が選挙にいかなくなるようです。

注：暮らし向き、健康状況、出産経験、学歴、生活満足度が同じとき、選挙に「いつも行く」を選択する人の確率が年齢に応じてどう変化するかを男女で比べた推計値。

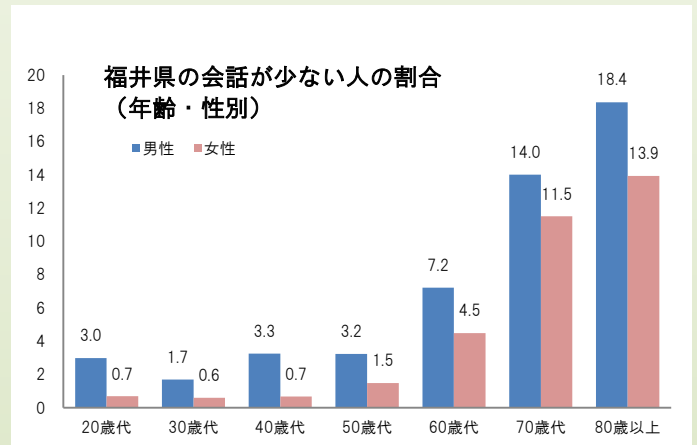


## 6 社会的孤立

会話が極端に少ない人の割合は、年齢と共に急増します。特に70歳代、80歳以上では非常に高い割合となりました。福井県の高齢者の子どもとの同居率は全国的にも高いですが、高齢者の孤立の割合は全国平均(\*)と比べてほぼ同じでした（図外）。

(\*)内閣府「平成20年度生活実態に関する調査」(2009.2) n=3,398

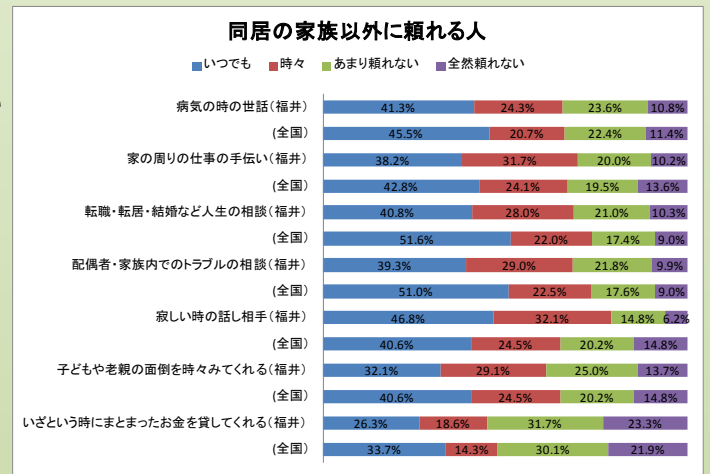
注：会話が少ない=会話（電話・インターネット含む）が一日に一回未満。



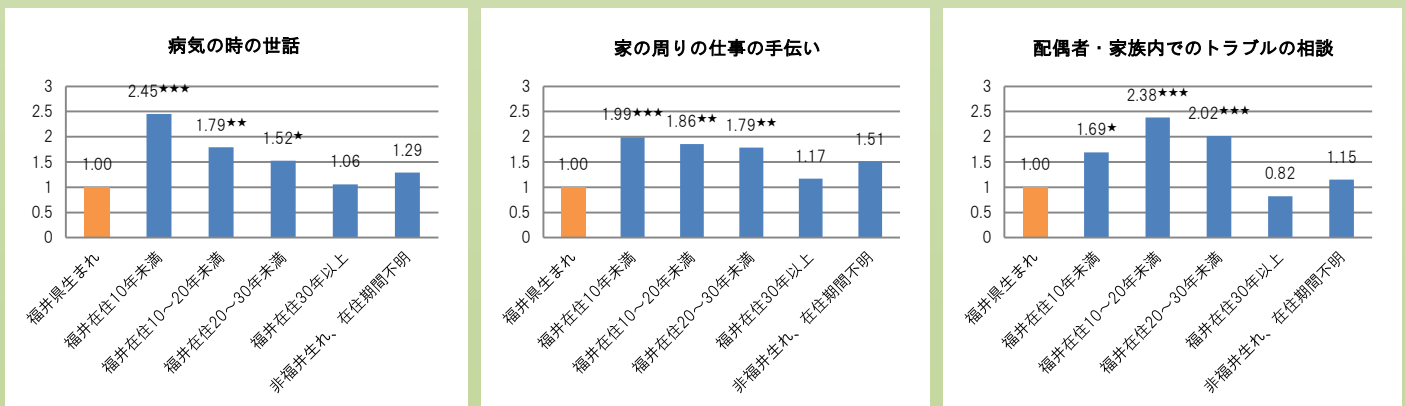
## 7 社会サポート：人と人とのつながり

家族以外の人々からの支援（社会サポート）について見てみると、全国平均と比べて福井県の人々は若干社会サポートが少ない傾向がありました。

また、これを福井県生まれの人と、県外から福井に移り住んだ人とを比べると、県外からの人は福井に長く住む人においても病気の時の世話や、重い家具を動かすなどの家周りの手伝い、配偶者・家族内でのトラブルの相談相手が得にくいことがわかりました。



社会サポートがまったくない人の割合（福井出身者を1とした時の倍率）

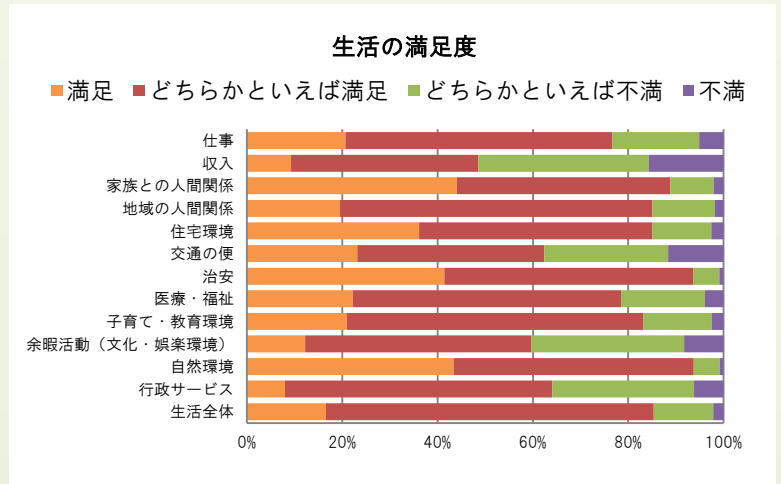


注：性別、年齢、収入が同じとき、福井県生まれと県外から移住してきた人を比べた推計値、★印がない項目は統計的に有意ではない。

## 8 生活の満足度

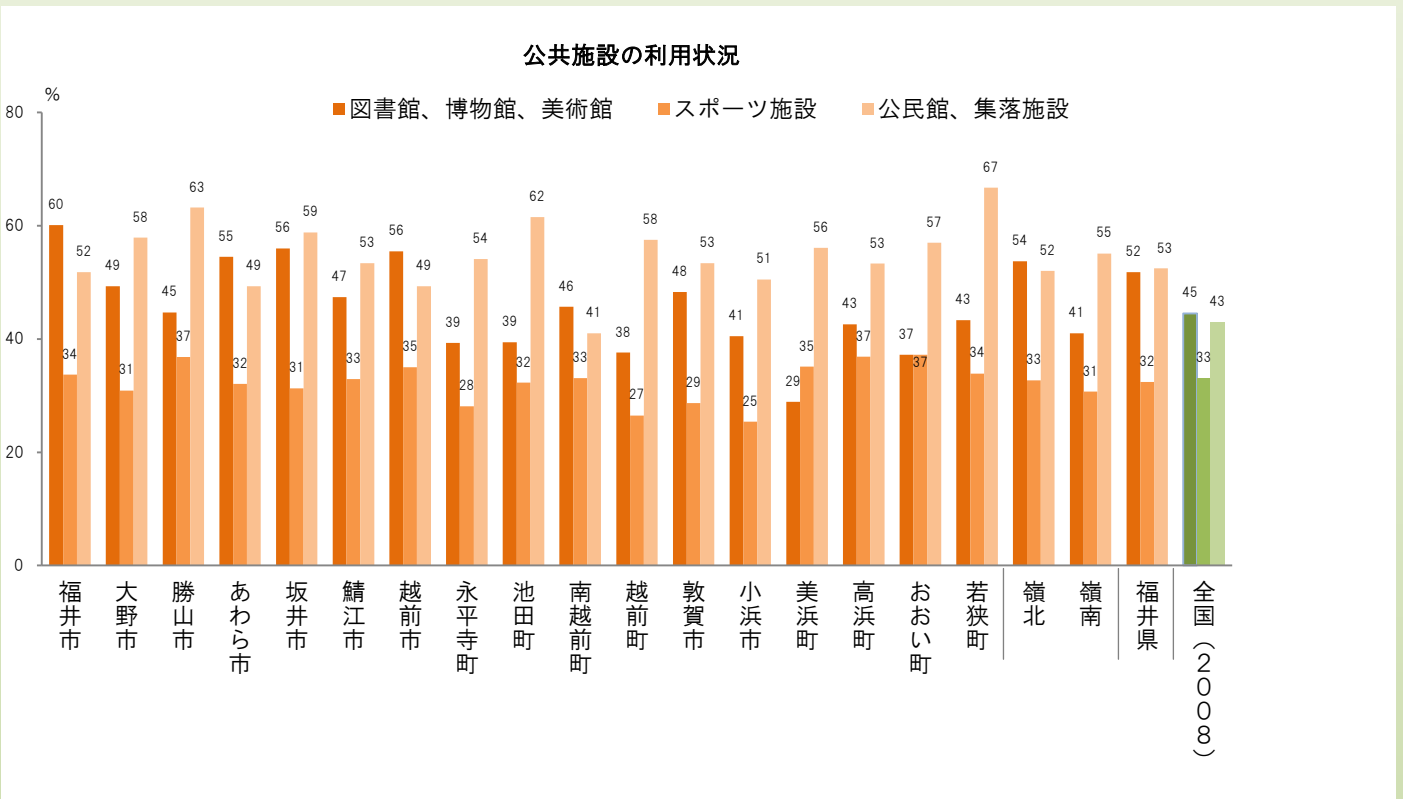
福井の人々は、生活のどのような面に満足・不満足なんでしょうか。

調査の結果、福井の人々の満足度が高いのは、自然環境、家族との人間関係、治安であることがわかりました。一方で、満足度が比較的に低いのは、収入、余暇活動、交通の便、行政サービスでした。



## 9 公共施設の利用状況

福井では、図書館、スポーツ施設、公民館など、公共の生涯学習施設を利用する人は全国よりやや多くなっています。地域別に見ると、図書館等は嶺北の市部、公民館等は山間・農村部や嶺南でとくに多くの人が利用しています。



注：全国の数値は左から「図書館（のみ）」「スポーツ施設（プールなど）」「公会堂、公営ホール、町内会館」の利用状況を示す。全国データ：「2008年社会生活調査」(n=1,021)

### 【調査に関するお問い合わせ】

◆東京大学社会科学研究所 大沢真理 研究室

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

Tel 03-5841-4950 Fax 03-5841-4950 E-mail: fukuseikatsu@iss.u-tokyo.ac.jp

◆国立社会保障・人口問題研究所 社会保障応用分析研究部 阿部彰

〒100-0011 東京都千代田区内幸町2-2-3 日比谷国際ビル6階

Tel: 03-3595-2984 Fax: 03-3502-0636

【分析】1. 玄田有史 2. 6.7.8. 阿部彰 3. 金井郁 4. 不破麻紀子 5. 荒見玲子 9. 羽田野慶子

